



平成 21 年 2 月 12 日

各 位

会 社 名 東和メックス株式会社
代表者名 代表取締役会長兼社長 村田三郎
(コード番号 6775 東証第 2 部)
問合せ先責任者 管理部長 佐藤武雄
(TEL. 03 - 5684 - 2321)

特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ

当社は下記の通り特別損失を計上することになりましたので、その概要をお知らせするとともに、最近の業績の動向等を踏まえ、平成 20 年 11 月 12 日に公表いたしました平成 21 年 3 月期（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）の業績予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失の発生及び内容

個別決算において、事業再編に伴い、たな卸資産除却損 25 百万円を計上、また、関係会社の財政状態が悪化したので、関係会社 3 社の株式を 505 百万円評価損計上、関係会社貸付金等に対しても貸倒引当金繰入額 590 百万円を計上いたします。（なお、関係会社株式評価損及び貸倒引当金繰入額は連結当期純利益の計算においては消去されます。）

また、連結決算においては、事業再編に伴いたな卸資産除却損 115 百万円を特別損失に計上いたします。

2. 平成 21 年 3 月期通期業績予想数値の修正（平成 20 年 4 月 1 日 ～ 平成 21 年 3 月 31 日）

(1) 連結業績予想数値の修正

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 発 表 予 想 (A)	6, 8 0 0	△ 2 2 0	△ 2 3 0	△ 3 5 0	△ 4. 8 6
今 回 修 正 予 想 (B)	6, 0 0 0	△ 3 3 0	△ 4 0 0	△ 7 0 0	△ 9. 7 2
増 減 額 (B-A)	△ 8 0 0	△ 1 1 0	△ 1 7 0	△ 3 5 0	—
増 減 率 (%)	△ 1 1. 8	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 20 年 3 月期)	6, 6 6 3	△ 3 8 2	△ 5 0 9	△ 4 1 8	△ 5. 8 7

(2) 個別業績予想数値の修正

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	4,000	40	30	△10	△0.14
今回修正予想 (B)	3,600	10	△50	△1,200	△16.66
増減額 (B-A)	△400	△30	△80	△1,190	—
増減率 (%)	△10.0	△75.0	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成20年3月期)	4,874	△221	△336	△572	△8.03

3. 修正の理由

金融危機に端を発した世界的な景気後退により、第3四半期以降、当社グループを取り巻く環境は予想を超えて急激に悪化しました。

通期予想につきましては、連結では海外子会社の Towa Global Tech Corp. Ltd. が中国市場及び欧米市場の景気急速悪化による大幅な減収、国内子会社では、トータルテクノ(株)が LED/ECO 事業及び SA 機器事業の企画・開発を主管する事業会社として事業転換を図りました。当期は従来の電子レジスター及び OEM ビジネスの売上不振の結果、計画を大幅に下回る見込であります。

個別では、新規事業である特機事業部門の携帯電話関連は順調に推移しましたが、当社主力市場である料飲店及びサービス業の市場が急速に冷え込み LED 表示機及び電子レジスターの売上が減少する見込であります。

営業利益につきましては、売上高の減少を法人特需及び仕入原価の改善により最小限に抑える見込です。また、経常利益につきましては円高による為替差損の発生により減少する見込であります。

当期純利益につきましては、経営環境の悪化を見据え厳しく見直した結果、連結では、たな卸資産除却損(約115百万円)の計上、個別では関係会社株式評価損(約505百万円)、関係会社に対する貸倒引当金繰入額(590百万円)(なお、関係会社株式評価損及び貸倒引当金繰入額は連結当期純利益の計算においては消去されます。)を特別損失に計上することにより大幅に下回る予想であります。

以上の結果、通期業績につきましては、第3四半期累計期間の業績が大きく影響し、連結及び個別とも予想を下回る見込であります。

*上記記載金額は百万円未満を切捨てて表示しております。

本資料の業績予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成しております。実際の業績は、今後様々な要因によって本資料の予想数値と異なる可能性があります。